

議 事 録

－令和4年度第1回浜松市森林・未来構想会議－

日時：令和4年7月6日（水）午後1時30分～3時40分

場所：静岡県浜松総合庁舎9階901、902会議室

内容：

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題

- (1) 令和3年度森林環境譲与税活用事業の実績について 【資料1・2】
- (2) 令和4年度森林環境譲与税活用事業の計画について 【資料2】
- (3) 意見交換

No.	内容
1	<p>譲与税の配分・活用は、適正に措置されていると感じ、市の努力に敬意を表したい。</p> <p>ただ、<u>森林整備・林業事業費の補助金</u>について、良い制度で今後も続けてほしいと考えているが、補助率（2/3）に対する執行が令和元～3年度の100%に比べて、令和4年度は70%と下がっている。令和元年度以前は50～60%であり、それに比べればよいが、<u>補助率に対する執行が100%から下がったのはいかなるものか。その理由を説明していただきたい。</u></p> <p>浜松市</p> <p>近年、国補助金が増加した影響で市補助金への申請が増加し、予算不足が生じ、流用等で予算確保を試みたが、補助しきれない状況があった。これを見越し、<u>令和4年度から確実に平等に分配することを目的に、補助率に対する執行を70%に下げることとした。</u>今年度については、年度途中で補助率を変えていくことは公平性に欠けるため、補助率に対する執行を70%として進めていきたい。<u>本事業が間伐・木材生産の軸事業であることは十分認識しているため、来年度に向け検討したい。</u></p>
2	<p>①いつ大きな災害が発生するかわからないため、<u>譲与税を予備費として積立し、必要な時期に使用できる仕組みにしておくほうがよい</u>という提案だけしておきたい。また、<u>譲与税創設後の予算額の推移に関するグラフ作成等をしてほしい</u>（譲与税分が増額されていることが必要で、譲与税が一般財源の代替になってはいけない）。</p> <p>②<u>カーボンクレジットの関係で、市が職員を公募していることを耳にした。広大なFSC認証林を有しているからこそ、市が中心となってみんなで揃ってCO2の排出権を取得するという姿が構築できるよう、譲与税を活用して進めてほしい。</u></p> <p>浜松市</p> <p>②カーボンクレジットについては、<u>現在民間人材を選考中。来月には決定予定のため、改めて情報提供したい。</u>確かにFSCを取得していれば、カーボンクレジット化が比較的容易にできると聞いている。<u>本地域にとって、どのように進めていけば山に還元できるか、木を伐らなくてもうまく財源が回る形を目指して進めていきたい。</u></p>

3	<p>森林経営管理推進事業について。針広混交林に誘導するという事業内容かと思うが、<u>森の力再生事業はプロットを作って追跡調査のようなものがあったはずだが、その結果を知りたい</u>。現場から見ると、天竜の森林は針広混交林に誘導することは難しさがある。うまく何か入ってきたとしても獣害により誘導が進まないことが多い。そのため、<u>針広混交林に誘導できているか追跡調査をきちんとする必要がある</u>。</p> <p>浜松市</p> <p>市の事業として進めているのは、所有者の意向を確認し、現地を調査し、利用間伐を行うのか県の森の力再生事業を行うのか判断するという流れ。森の力再生事業を活用した箇所についてのプロット調査は県が実施している。</p> <p>調査をした中で、利用間伐も森の力再生事業も行えない箇所を、市の事業で環境伐を実施する。この事業については、所有者がギブアップした森林が対象であり、実績としてはかなり少ない。おっしゃるように、<u>針広混交林化は難しい部分があり、継続してモニタリングを続けていきたい</u>。</p> <p>おそらくもうワンプッシュしないと針広混交林化は非常に難しい。</p> <p>浜松市</p> <p>所有者がギブアップし、全額負担で整備した森林について、再度税金を活用して整備することに対してはいかがなものかと感じる。</p> <p>理想ではあるが、所有者がギブアップしたままでも、良い山が維持できる手助けすることも必要かと。</p>
4	<p>天竜林業研究会としての提案を配付資料に基づき説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>人材育成・担い手確保への更なる支援を要望</u>する。特に、補助条件に採用後1年以内とあるが1年で人は育たないため、もう少し期間を延ばしてほしい。 ・自伐林家や天竜林業研究会として、浜松市の森林の広告塔を担っている自負があるが、活動資金があるとうれしい。 ・補助金をもらうためわけではなく、<u>「いい山をつくりたい」という目的で施業しているが、数や量による評価のため、丁寧にやっているがゆえに評価されづらいことに疑念がある</u>。 <p>浜松市</p> <p>おっしゃっていることは理解できる。検討していきたい。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・都市間連携事業等も行われているようだが、<u>販路拡大のための啓蒙ではなく、林業の本質を理解してもらうための啓蒙が重要</u>と考える。市民の林業に対する意識や理解を醸成することが、税金が使われていることに対する理解が得られるのではないかと。「<u>環境</u>」の面は<u>非常に大切かと考えるため、広く伝えていく必要がある</u>と考える。 ・<u>オリパラのレガシー材</u>についてコンペを実施し、コンペで余った材の活用を検討されているようだが、<u>コンペではなく、希望者に広く配布し活用してもらうことも必要</u>ではないか。 ・<u>基金への積立について批判的な記事</u>が出ている。基金への積立が悪い印象になっているが、「<u>使い道に困っているから積立したわけではなく、こういった目的があるため積立した</u>」と整理しておけば問題ないはず。<u>浜松市がモデル的に実例を作っていくことも必要</u>かと。 <p>浜松市</p> <p>基金への積立について話をいただいたが、林野庁の情報があれば、天竜森林管理署に伺いたい。</p> <p>天竜森林管理署</p> <p><u>令和6年度からの徴収開始(1,000円/人)</u>されるにあたって、<u>令和5年度に譲与税の用途についての議論が行われる</u>こととなっている。その議論の材料になるのが、令和4年度の執行状況。県西部の各市町をまわりヒアリングを行ったが、<u>積立しているにしてもきちんと目</u></p>

	<p><u>的がある市町がほとんど</u>であったため、その旨林野庁に報告をしたところ。</p>
6	<p>ウッドショック等による影響は当然あるが、安い外材に頼っていたこれまでから、<u>天竜材にシフトするいい機会</u>と感じている。</p>
7	<p>山のことを伝える立場からのお願いだが、<u>サロンのような仕組みがあればいいし「いつでも見に行ける天竜の山」があることは重要</u>と考える。最低限観光バスで行くことのできる山があればよい。見るだけでなく体験もできる、連れていきやすい核になるような場所があれば、伝える立場の人間としてはありがたい。</p>
8	<p>(資料1、2への質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「浜松版森林経営管理事業」における環境伐の手法の基準はあるのか。 →県森の力再生事業に準じて実施（県森の力再生事業の対象外の森林で実施）。 ・森の力再生事業は生態学から見ると不確かな方法で非常に危ないと思料。本来、本会議に生態学の専門家が入るべき。「山地災害予防対策事業」の採択の基準は。 →事業者から提出のあった申請書について、緊急度等を考慮して採択している。 ・災害は緊急度だけでなく、重大度も重要ではないか。 →然り。その場合は治山事業で対応している。 <p>配布資料に基づき、譲与税使途の提案について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>市民が恩恵を感じられる事業があまりない</u>ように思える。普及啓発や動画作成等が行われているが、<u>環境教育の活動自体に補助が一切ないのは、正直苦しい</u>。 ・令和6年度からの森林環境税徴収に向け、<u>譲与税の使途をまとめたものを市民向けに作成し、理解を得やすくすることが必要</u>かと思う。
9	<p>従業員に現状や譲与税の使途について聞いたところ、林業機械の不足が多く挙げられたが、<u>足りないのはやはりマンパワー</u>である。<u>山主への還元のためにも担い手の育成・人材確保には更に力を入れていくべき</u>かと考える。</p>
10	<p>昨年度もかなりの量の丸太が出ており、関係者の協力に感謝したい。現状をチャンスと捉え、うまく利用できるような施策を考えていただければと思う。</p>
11	<p>今回が初めての参加。現物の材木を扱っているのみであり、生産現場から材木として届くまでの流れを見たことがない。<u>浜松市は天竜材、FSCを全面に押し出しているが、市内にその象徴となるものがない</u>ように思える。<u>今後、天竜材をどのように利用していくというビジョンはあるのか</u>。住居る事業の補助金はあるが、それ以外のものはあまり感じられない。</p> <p>浜松市</p> <p>核として住居る事業があるが、非住宅建築物や木製什器への補助等のメニューは用意している。あとは公共建築物への積極的な活用を進めていくことを考えている。</p>

12	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>いかに市民へ伝えていくのかを考える必要がある</u>。一般市民が触れるところで天竜材を使用していくことは重要と考える。<u>大規模で目立つ木造建築物もちろん効果的だが、一般的に木材を使用するものに当然のように天竜材が使用される仕組みを作ることが重要</u>。 ・ また、<u>ふるさと納税ではないが、市民から譲与税をどのように活用してほしいのかヒアリングすることもよい</u>のでは。 ・ 針広混交林化が難しいという話があった。<u>税金は費用対効果を求められがちであるが、譲与税こそ費用対効果を超えたものに活用していくことも必要</u>と考える。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンドユーザーに近い立場からの意見であるが、住居る事業やぬくもり空間創出事業の補助金はあるが、エンドユーザーがより使いやすい仕組みがあればよいと感じた。 ・ <u>天竜材がどういうものかエンドユーザーにうまく伝わっていないように感じる。「これが天竜材」とわかる象徴的なものを作ることも効果的</u>と思う。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業は川上から川下まで一連の流れがあつてのものだが、川下の立場は、分離しているものと捉えているように思える。<u>川下はなるべくたくさん材を使って川上に還元しなければならないため、川下へのさらなるPRが必要</u>である。若い設計者を中心に、木材利用への流れがあるので、<u>積極的に木材利用している人への評価をもっと行ってもらえれば、天竜材を更に普及できる</u>のではないかと。 ・ <u>天竜材を使用した箇所のPRにも工夫が必要</u>。例えば、住居る事業を使った施工者に幟旗や垂れ幕を配る、設計者や施工者を含めた事例を公開するなど効果的と考えられる。 <p>浜松市 住居る事業は施工地への幟旗設置を行っている。更なるPRについては検討していきたい。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山で一生懸命働いている方への支援は必要と考える。 ・ 森林には様々な機能があるが、その中に林業、環境教育等に加えて森林で生計を立てている可能性はあるため、<u>新たなビジネスを構築するための投資も必要</u>ではないかと。 ・ 山を守っていくためには、川上だけでなく、川下まで巻き込んで考えていくようにもっていく必要がある。そのための<u>情報発信は重要</u>と考える。例えば、<u>映像をひとつ作って街中で流す、商工会議所で話をさせてもらうなど、ありとあらゆる手を使ってPRしていくことが重要</u>である。
16	クラウドファンディングを活用した研究資金の募集について（配布資料に基づき情報提供）

浜松市

様々な意見をいただく中で、共通するのは、林業や環境を「伝える」「知らせる」というキーワードがあったように感じる。

今後御意見があれば、電話、FAX、メールでも結構なため、林業振興課までお伝えいただきたい。

次回会議は9月頃に開催予定。本日いただいた意見・提案をまとめて提示し、さらに意見をいただければと思う。

4 報告、連絡事項

5 閉会